

理研シンポジウム：第19回 分析・解析技術と化学の最先端

開催日時：平成30年12月18日（火） 12:55-17:30

場所：国立研究開発法人理化学研究所 鈴木梅太郎記念ホール

主催：国立研究開発法人理化学研究所（環境資源科学研究センター 技術基盤部門 分子構造解析ユニット）

協賛：日本化学会、日本農芸化学会、日本薬学会

Frontiers on Chemistry and Analytical Technology (XIX)

Tuesday Dec. 18, 2018 12:55-17:30

Suzuki Umetaro Hall, RIKEN

Contact: RIKEN CSRS, Technology Platform Division, Molecular Structure Characterization Unit
(Tel. 048-467-9361)

新しい重要な機能を持つ化合物の発見と創成が化学の進展のドライビングフォースであるが、より高度な新しい分析技術、解析技術の開発と応用も化学の最先端には必須である。本シンポジウムでは、最新の機器分析技術、化学と関連分野のトピックスとそこで活用されている分析・解析手法について、開発に携る研究者とそれらを効率的に利用している研究者に講演していただき、活発な討論を行う予定である。

12:55-13:00

趣旨説明

越野 広雪（理研 CSRS）

13:00-13:40

理論と実験で切り拓く分子構築・機能創出

内山 真伸（東大院薬、理研）

13:40-14:20

質量分析による材料分析を加速するデータ解析技術～装置の特徴を活かすソフトウェア開発

佐藤 貴弥（日本電子株式会社）

14:20-15:00

Si-Cl 結合切断を基軸とするクロロシラン類の触媒的分子変換反応の開発

中島 裕美子（産総研）

休憩（15:00-15:30）

15:30-16:10

Recent progress of high-resolution solid-state NMR: Applications to misfolded amyloid-beta proteins and graphene-based systems

石井 佳誉 (理研 RSC、東工大生命理工学院)

16:10-16:50

Lipid peroxidation-mediated modifications to biomolecules: mass spectrometry-based mechanistic study and selective screening

李 宣和 (東北大院薬)

16:50-17:30

植物生態系を紡ぐ香り化合物の代謝を介した相互作用

松井 健二 (山口大院創成科学)

17:50- 意見交換会 (広沢クラブ)

[問い合わせ先]

国立研究開発法人理化学研究所 環境資源科学研究センター 技術基盤部門 分子構造解析ユニット
越野広雪

〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1

Tel.: 048-467-9361 ; Fax.: 048-462-1640

e-mail: koshino@riken.jp

[参加申し込み]

氏名, 所属, 住所, 電話番号, 電子メールアドレス, 出席人数, 意見交換会

参加の有無 (有料 4,000 円、学生 2,000 円) 等を明記の上, e-mail にてお申し込み下さい。

[個人情報に関する取扱について]

ご記入いただいた個人情報は, 参加者の集計および主催者からの連絡に利用させていただきます。
